

ごん吉くんレポート

～南吉よもやま話～

第37回 南吉の中学生日記

新美南吉記念館では、11月3日から2月17日まで半田高等学校100周年記念企画展「南吉の中学生日記」を開催します。(施設改修工事のため、11月12日～12月21日は臨時休館)

今年半田高校が、第七中学校として創立して100年の記念の年です。明治から大正期に愛知県下に8校設立された伝統あるナンバースクールの一つであった第七中学校は、大正11年、半田中学校に改称。同15年、新美南吉はこの旧制中学に入學しました。この頃の校舎のうち、唯一、武道場(現七中記念館)が現存しており、創立100周年を記念して建物の耐震補修工事が行われました。

新美南吉の中学時代については、主な資料として日記が挙げられます。ここには、同じ中学の友人たちと、ときには成績を競い合い、ときには執筆した文学作品を見せ合いながら、学生生活を過ごした様子が記されています。昭和

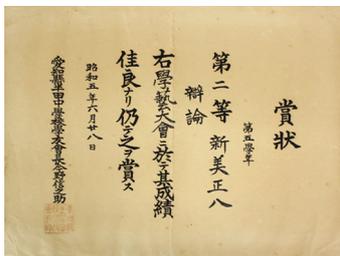
4年の日記によると、南吉は1年で、童謡122編、詩33編、童話15編、そのほかに小説やシナリオなどたくさん作品を創作し、雑誌などに投稿しています。童話「巨男の話」もこの頃の作品です。学業成績を順調に伸ばし、文学に没頭するかたわら、年頃の少年らしく、恋や進路の悩みもまた、抱えていました。

散髪した。頭をシャボンで洗つてる時づいなが通つて行つた。知つて、知らぬふりしている。あゝらぶのとりによ!!

(昭和4年の日記 8月16日) 新聞広告欄に「家庭教師雇はれたし」と求職し、東京の某金満家に雇はれ、早稲田大学予科に入り、文科を卒へて新聞記者になり、自分の作品を発表する―それから結婚、幸福―こんなはかない空想だ。父が、「貴様は小学教員であれば好い」と云つたからだ。(同 2月9日)

中学4年生では、大きな事件もありました。昭和5年2

月10日、南吉が離れの家で風呂をわかした後に、火事が起きました。風呂の煙突の過熱によるものなので落ち度はないと父は警察に主張しましたが、事情聴取も行われ、南吉は強い衝撃を受けます。このときのできごとを、4か月後の校内の弁論大会で、「経験」と題して静かに語りかけるように発表しました。例え苦難であっても経験することで真の感情を知ることができるよう、その経験は貴いと主張したのです。大会の結果は2等でした。



弁論大会の賞状

アンケート

- Q1 今号でよかった内容や写真があれば教えてください。
- Q2 今号を読んだことがきっかけで行動したこと、または、したいことはありましたか。
- Q3 市報で取り上げてほしい内容や企画、広報に関するご意見・ご感想などありましたらお聞かせください。

回答方法

住所、氏名、年齢、アンケートを書いて、ご送付ください。

あて先

〒475-8666 東洋町2-1 企画課
Eメール kouhou@city.handa.lg.jp



表紙は、板山こども園での子です。自分たちの植えた苗の収穫との事で、園児たちは「早く掘りたい」とやる気満々。地域の農家のみなさんからアドバイスを受けながらも掘りを楽しんでいました。「やったー見て見てー」と満面の笑みで、いもを持って駆け寄ってくる子どもたちにホッソリしました。

さつまいもは、後日焼きいもにして収穫の喜びを味わったとの事です。この体験をした子の中から、将来農業を営む子が出てくると嬉しいですね。(浅野)

編集後記

